

# ハイマート Heimat

ぐんま日独協会会報

1993年4月21日 発行

**7** 設立 5周年  
記念号

発行者 平形義人

発行所 ぐんま日独協会

〒371 前橋市三俣町3-11-12

☎0272-31-7212 FAX0272-32-4082



・ぐんま日独協会クリスマスの集い

・平成4年12月13日

・群馬会館第1会議室

## ■ハイマート7号の主な内容

- ぐんま日独協会設立5年間の歩み
- なごやかなクリスマスの集い
- ドイツ旅行紀行文
- 「異文化の接点」著者紹介
- 事務局だより
- 5周年記念大会(6/27 PM1:30から群馬会館)  
のご案内

## お知らせ

### ぐんま日独協会5周年記念大会

- 日時 '93.6.27(日)PM1:30~4:00
- 場所 群馬会館1F「大理石の間」
- 費用 参加費2千円及び平成5年度会費  
(個人3千円 家族5百円 法人1口1万  
円)と同封の振替用紙にて6月5日までに  
払込み下さい。(欠席の方は年会費のみ)

当日は、J. クライナー教授の講演・東京日独協会を代表して常木實教授も来県の子定です。皆さん是非ご参加下さい。

題字：平形義人会長 表紙写真：石井直人

## ぐんま日独協会の5周年を迎えて

ぐんま日独協会々長 平形 義人

1988. 4. 17設立された当協会はお蔭様にて本年5周年を迎えることとなりました。『ドイツ好き集れ』の相言葉が本会を誕生させました。当時日本は敗戦以来米語一辺倒となってしまうと、ドイツ語熱が明治以来最も冷え切った時でした。ハリヤー大使が自らベンツを運転され、夫人、その御母堂、御子様を同伴され、残雪の小諸一草津経由で、桜満開の前橋に御臨場下された御蔭で、300人の大集会となり、群響の国歌演奏による入場、沼田のコーラス、桐生の少年少女ヴァイオリン演奏もあり、県民を代表して清水知事自ら商工会議所の貴賓室にて、懇篤な挨拶をされたことなどが賑に浮びます。

1989. 4. 16にはユンク公使ご夫婦と、2人の御嬢様と、前年秋設立されたばかりのベルリン日独センター初代総裁甲斐文比古氏が御来県下され、県民会館で大会をもち、伊香保・榛名経由、ブルーノ・タウトゆかりの少林山達磨寺で一服喫茶、朝雲久児臣会員の名著『もうひとりのブルーノ・タウト』の一頁を飾ることとなりました。

1990. 2. 21には前橋市中央公民館に於てM. オステナー等参事官のベルリンの壁崩壊直後のドイツ事情についての講演会が催され、同日清水県知事と前橋市長への表敬訪問あり、前橋のドーム建築が話題となりました。

同年4. 15. 東京日独協会を代表して新聞界の大御所江尻進副会長夫妻が御臨席下され、日独の桜の女王や、"L E BEN UNTER DEM SCHNEE" (鈴木牧士)の紹介者ハーシ<sup>ベルリン</sup>伯林日独協会長、橋本柝木日独協会長の特別参加があって、群馬会館で大会が催され、第二部には小塩節先生の特別講演が前田みつ様のお口添で実現し、大成功、特に"カンカーン"と響くベルリンの壁の破片を打ち鳴らしたの熱弁には、皆感動させられました。

1991. 1. 25ぐんま日独協会法人会が前橋市東和銀行本店13階大会議室に於て発足し、之によって当協会の財政基盤が強化され、組織が充実し、事務所も三俣に移り、会の運営も漸く軌道に乗りました。

同年4・26にはドイツ大使館から日本語の達人 Dr.W. シュルテ参事官を迎え、知事、前橋市長表敬訪問、有志昼食会の後、東和銀行前田文雄頭取の手厚い配慮を頂いて、同行の新装なった大会場で、3周年記念大会が催され、四人の大使表彰が行われた。之は他に類例のないことである。第4号会報に所載の如く、28年の長きに亘り E. V. ベルツ博士生誕のピーテヒハイム・ビッシンゲン市と姉妹都市としての親善交流をつづけられた草津町(山本巖町長)、12年もの市民ドイツ語学習に努められた沼田ドイツ語会(角田勤)、医学者でありながら持前の文学的教養を生かされ『タンテ・マイヤー』を著はされた白倉卓夫教授、高崎市少林山達磨寺滞在のブルーノ・タウトに従来の建築家としてのみならず、新に文明批評家としての評価を『もうひとりのブルーノ・タウト』を著すことにより与えられた朝雲久児臣氏であります。



'92. 6. 1 来県されたハース大使ご夫妻  
藤田ご夫妻・平形会長・シュルテ参事官(左より)

1992. 5. 31W. ハース大使御夫妻と、Dr. W. シュルテ参事官をお迎えした。4周年大会については会報4号5号に報じました。ぐんまの会員が直接大使夫妻とこんなふうに打ち解け合うことの出来たことは、貴重な日独交流ぐんまの忘れられない歴史です。

今年は5周年記念ですので、従来に増して皆様の結集をお願いし大会を6月27日別記の如く催したいと存じますので、振って御参加下さい。記念講演を快諾下さいましたJ. クライナー教授は東大でも研究された日本語通。御存知の常木実先生は昨年ドイツ功労勲章一等功労十字章の栄に浴された方。何卒誘い合わせて、お出かけ下さいますように!!! (詳しくはP7をご覧ください)

ぐんま日独協会の発展と、会員皆様様が益々ドイツ<sup>いっしょ</sup>真となりませう様、期待して擲筆します。

(尚、今秋には5周年記念コンサートを計画しております。)



MERRY XMAS

12月13日のクリスマスの集いから

前橋市 古屋 賀津子

平成4年12月13日は、暖冬の有難さで、穏やかなクリスマスの集いでした。昨年私は、骨折入院で出席出来ませんでしたので、本当に楽しみにして当日を迎えました。会場は群馬会館地下会議室で、はじめてだったので入口を捜すのに不安でしたが、西北の県庁寄りの玄関に入って、階段を下りると理髪店があり、その前を右折、つき当たったところで、独立していて、案外広く、静かで、隣には食堂がすぐ利用できるし、化粧室もあって、なかなか便利、次回もここで声も聞かれるほどでした。さてもう皆様がお集りで、私は何のお手伝いも出来ず申し訳ない事でした。いつもの方々の他、珍らしく、なつかしい忘れ得ぬ方々もお見受けして本当に嬉しかったです。同好の士と言う事で、心の深い所でのおつき合いですので、本当に楽しく一緒に歌ったり笑ったり、時の経つのも忘れた一刻でした。会長先生のいつも乍らのお心づかいを頂き感謝申し上げます。

## 三分間のプレゼント!?

高崎市 朝雲久児臣

クリスマスの集いがそろそろ終わろうとしていました。一人ずつ立って感想とか、自己紹介とか、近況を話しはじめました。新しい顔の出席者は、思いをこめて語ってくれるし、お馴染みの人はマイクに口を運ぶと、春一番のようにさっとつぎの席にボタンタッチしながら、ユーモアをのこしていくのでした。土屋さんのところへ番が回っていきましました。ピアノリサイタルの計画でも聞けるかな、それとも旅行談義がでてくるかな、と勝手な想像をめぐらせていた私にお構いなく、

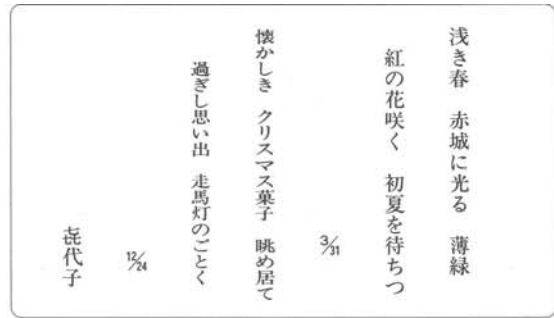
「わたしの三分間は、朝雲先生にプレゼントします。

先生どうぞ!」

“おそれいやの鬼子母神”とはこんなときのセリフを言うのだろうか、恐懼と感激いっぱい物書きは、ピアノ教師に向かって、合掌ならぬ片手を差し出だし、マイクを押し戴く仕種を余儀なくされてしまったのでした。

たまには、あっさり、すっきりとしたあいさつを望んでいた私でしたが、3分間のプレゼントは、『帰ってきたブルーノ・タウト』の新刊予告にははしくも話が進んでいってしまったのでした。

タウト第2作は『もうひとりのブルーノ・タウト』に寄せられた読書感想をもとにした「読者参加」の本です。600件余りの反響もさることながら、内容の質的な高さと、範



囲の広い視点が注目されるところです。とりわけ、ひとりの貴婦人から届けられた「水茎うるわしき手紙」は、タウト制作による「和式テーブル」という大型家具の発見をうながす結果につながっていきました。さらに、その貴重な文化財が織りなす、数奇な人々との出会いと人生模様は、事実というものの小説より面白く、また、不思議な因縁のあることを教えてくれるのでした。

平形義人先生のほか、ぐんま日独の角田勤先生、中村鉦一先生、家崎叔先生などのほか、国内外でご活躍の著名な方々が作品のなかに顔をだしてくれます。楽しくお読み頂けると思います。そのあとで、タウトの非凡な偉大さに胸うたれることでありましょう。ご期待ください。そして、多くの方々にご推薦くださいますように…。(新刊書は4月末出版予定です。定価2000円)

「三分間のプレゼント」これをもって大団円といたします。(1993. 2. 12)



釜苺会員と古屋理事



三分間のプレゼント!?  
の朝雲理事



▲プレゼントに大喜びの  
茨川アリサちゃん



プレゼントの  
田口理事



ドイツ放浪記の  
佐藤事務局長



▲沼田ドイツ語会 アレックス J.ALEXANDER VON ALTENSTADT先生(中央)  
(左より) 松浦夫人・角田副会長・朝雲理事・対馬理事



短歌の土屋理事



▲全員でドイツ曲を合唱  
(左はし) 高寺理事

※尚、当日有志の方々の「愛の募金16,545円」は上毛新聞社へ委託しました。ありがとうございました。

## ドイツ放浪記 (抜粋)

前橋市 佐藤 進一

ドレスデンと言う都市について私の予備知識は乏しかった。数年前このオーケストラが県民会館で演奏会を開いた時間きに行った程度である。或はロマンローランの代表作とも言うべき「ジャンクリストフ」の中で主人公が政治的動乱に際しドレスデンから逃亡すると言うドラマが私の記憶にあった程度である。大体東ドイツに関する旅行案内書を見付けることが難しかった。然し私の旅行は「行ってみれば何とかなるよ」という楽観主義に基づくものである。

ライプチヒからドレスデン迄のDR(東独鉄道)は約2時間かかり、列車はノイシュタット・ドレスデンを経てドレスデンに停る。後で分かったことだが、ドレスデンは街の廻りに鉄道が走りノイシュタット(新市街)と旧市街に分けているのであった。私の降りたドレスデン駅前はまだ広々とした空き地であった。それは今迄のどの都市にも見られなかった光景であった。駅前が空き地になっていたのは戦争の傷痕であろう。300米位先にやっと10階建の大きな白いビルが建っており、私の目指す観光協会はその中にある。

そこで今夜泊まるべきホテルを紹介して貰った。「ゲバントハウス」と言う名前のそのホテルは街の中心部らしく、近くには市役所やマーケット広場があった。ホテルのフロントデスクには肥った中年の女性がいた。ここではドイツ語又はロシア語が公用語である。彼女は私の要求を聞くと部屋は空いているが午後2時迄待てと答えた。私がホテルに着いたのは午前11時であった。ホテルのチェックインは通常午後であることは知っている。併し「西側」では部屋が空いていれば午前中でも客を入れるのである。ゲバントハウスはこの点極めて官僚的であった。或は文字通り満室かとも思われたが、そうでないことは午後2時になって、鍵を渡されてみて分かった。空室はいくらもあった。その時間にメイドが働いているのである。要するにメイドが出勤する時間が午後からなので、午前中は客を容れることができないと云うのが真相であった。

私は持ち運びのスーツケースをフロントに預け、ホテルのレストランで昼食をとり散歩に出掛けた。ホテルの裏側にあるマーケット広場には大ぜいの人々が集まっていた。公衆電話が広場の四隅に設備されていたが、何れも人々が列をなしていた。私は明日訪れるベルリンの友人に電話する必要がある。それは数日前フランクフルトから電話した時前日改めて連絡すると約束した為である。公衆電話にはテレホンカード用のものもあった。

私はカードを挿入して数字盤を押した。すると交換手と思われる女性の声が出て、カードが戻って来た。ペラペラと喋るドイツ語は電話番号が間違っているから、調べ直してかけろと言っているようである。私がカードを買ったのはフランクフルトである。若しかするとここドレスデンでは通用しないのかと思い、コイン用の電話機を使ってみたが、反応は同じであった。明日ベルリンに到着する時間を予め知らせなければメッシング氏に会うことも難しくなるだろうと思うと、私は焦立った。ホテルに戻ってこの事情を説明した。私の知る限りのドイツ語が何と

か役に立った。彼女の答えは、ここ東独(DDR)では西独(BRD)とは電話が異なるのである。西独へかけるには07を呼び、次いで局番から0を除いたものをかければよいと教えてくれた。最後に彼女は「あなたは東ドイツに居るのです」と言葉を結んだ。(Sie sind in DDR.)

私達日本人の感覚からすればドイツ統一は既に1年前に実現しているのだから、東ドイツと言う国はないと思っていた。東京にあった東独大使館も閉鎖されたことはテレビニュースに載った。法制上東ドイツは消滅したが、旧東独の住民は殆ど元の儘で居住しているのだから。国鉄も以前のDRであり、DB(連邦鉄道)とは別のダイヤで走っており、料金もDBよりも安い。スーパーやマルクト(市場)でみる食料品、衣類も西側より安い。例えばアイスクリームを買っても西側より東側の方が安い。一般の食料品も同様である。ホテルや鉄道の従業員も統一前と変わっていないようである。変わったのは通貨と上級職の者だけである。旧東ドイツマルクは西にくらべ極めて低い価格であった。表向き3分の1と言われていたが、統一当時は5分の1とも10分の1とも言われた。旧政府が紙幣を乱発した故であろう。

二つの国家が一つになる時一番問題になる点は通貨の統合である。我が国の場合だと沖縄返還がその例である。戦後アメリカの占領下にあった沖縄はドルが通貨であり、当時のレートは



下校する小学生(ドレスデン)

360円であった。沖縄県民の中には感情的に日本復帰を望まぬ声も多くあった。この儘アメリカに隷属したいと思う人もいた。又進駐軍相手の職業の場合、交換手数料の損失はばかにならない。日本経済は第1次オイルショック前の絶好調であったから、凡てのドルを円に交換してもビクともしなかった。それ迄も内地留学生に特待費を出したり、その他の福祉政策にも援助して来た。復帰後間もなく沖縄の経済事情は日本本土と同じレベルになった。

ひるがえって東ドイツの人口は1400万人西ドイツは6600万人、通貨の価値を3分の1と考えると人口は3倍と云う計算になる。6600万人が4200万人を養わなければならぬ。沖縄県民100万に対し日本の人口は1億2千万である。120分の1を扶養する日本と比べ、ドイツの場合は3分の2を背負うのである。

東西統一が難しいのはこんな所にもある。だから東ドイツは昔の状態を保った儘で統一せざるをえない。おまけに統一する迄にソビエト連邦へ注ぎ込んだ金は随分多額のものであったろう。そこへ降って湧いた湾岸戦争にも多額の出費を余儀なくされた。だから東を救うべき財政が底をつくのもムリはないのである。東側の生活で電話の普及が悪いのも旧体制の名残りである。公衆電話の新設はその補償であり、通話者の列は自宅用が足りないからである。



H4・7・30 高崎 白衣観音の  
須郷登世と  
アルベルト・ライマン先生と  
須郷登世と  
北爪和男様撮影

## ドイツ経済相の講演

高崎市 須郷登世治

平成4年11月19日(木)東京のパレスホテルにおいて、全国日独協会連合会の年次総会が行なわれ、群馬からは、平形会長はじめ、佐藤さん、中村さんと、私が参加させて頂きました。私ごとき新参者にまでお招き賜り、感激の至りです。当日、12時30分より全国総会の議事に入り、外務省欧亜局や在日ドイツ大使館の首脳部の方々が出席され、各県の日独協会から、活動状況やご意見がたくさん出ました。これからの日本とドイツとの提携は、私たち日独協会の活動こそ、その主動的役割を演ずるものと、頼もしく感じました。

15時から、ユルゲン・メレマン経済相(Jürgen Möllemann, Wirtschaft-minister)による「ヨーロッパにおける経済情勢とドイツ」と題する講演と、質疑応答が行なわれました。同経済相は、1945年生まれで、いくつかの大臣を経験し、今日は副首相兼経済相としての講演であり、若いけれどもなかなかの大政治家であるとの印象を受けました。まず、東ドイツの統合につき、東独の経済は予想以上に悪化していた。昨年度の経済成長率は、3.7%から1.5%に落ちてしまった。しかし、東独の企業も1万社売却出来、好転のキザシが見えて来ました。経費節約により、東独経済も発展しつつあります。特に、自動車、化学、鉄鋼部門が好転しています。極右の少数過激分子は、断固取り締まっています。ECについては、中央集権国家には、なり得ません。ドイツ経済には、EC諸国や東欧諸国との貿易が必要です。統一されたECは、人口3億8千万人ありますから、ドイツ企業には大きな販売市場となります。当面、東独の再建には1995年までに、さらに4千5百億マルクの支出が必要で、その財源として、債券発行などの借入れによるため、追加利子は年間40億マルクになりますので、それは今後の財政運営の険しい課題であります。

最後に、47歳の若きドイツの大政治家として、日本に来て、1時間半も、たくさんの人々の質疑に回答してくれましたが、日本に、これだけの人物がいるだろうか、と思いました。私も、質問事項として、①流入する経済難民への対策について、②軍隊の海外派兵について、質問したいと、何度も手を上げましたが、質問者が多過ぎて、私の番に指名されなかったのは、残念でした。しかし、ドイツのこれだけの大物の風貌と肉声にふれることが出来、人柄や頭の回転の早さなど、日本には居ない大人物であると思いました。

Dr. Albert Reimann, より、美しいボーデン湖の写真付のカレンダーが届きました。Danke schön! (1993.2.12) ハガキにて、下記の通りの返信を出しました。

Mein lieber Herr Dr. Reimann!

Am 15. Fed. '93 habe ich mit der Post einen KALENDER vom BODENSEE, Ihre eigene Arbeit empfangen. Mir fehlen die Worte, meinen Dank auszudruecken, Vielen herzlichen Dank!

Am Ende des 2. Weltkrieges wurde ich als Rekrut von der Universitaet aus einberufen und war Marine-Radaroffizier. Dabei wurden viele Kameraden getoetet. Deshalb denke ich, dass der Krieg furchtbar und verabscheuenswert ist.

Jetzt studiere ich deutsche Rechtswissenschaft (besonders die deutsche Verfassung) und die "English Constitution."

Die Einheit Deutschlands ist vollzogen, aber wenn der 3. Weltkrieg ausbrechen sollte, wuerde die Menschheit vernichten werden. .... (後略)

### 【訳文】

尊敬するアルベルトライマン博士様 お手製のボーデン湖と地方風景のカレンダーを有難うございました。感謝感激です。世界大戦の末期に、大学より強制徴兵にて海軍に入り、電測士官として働きました。たくさんの方々が死にました。それゆえ、戦争は恐ろしく、嫌いです。私は、今、ドイツ法学、とくにドイツ憲法と英国憲法を研究しております。ドイツ国の統一も完成しましたが、が、第3次大戦が起こったなら、人類の滅亡は免れないでしょう。我れ我れの願い、それは、健康と自由です。御機嫌よう、さようなら。1993. 2. 15

## エスニックの時代

川口市 松浦 孝久

タイやアフリカなどの料理が近年、日本でも流行しており、「エスニック(=民族)ブーム」と呼ばれています。今まであまり注目されていなかった民族の文化とか風俗を楽しむのが、時代の先端、というわけです。

また世界を広く見ても、民族の意識が高まり、崩壊後のソ連では、それまで連邦を形成していた各共和国が民族ごとに独立。旧ユーゴスラビアも同様で、こちらは民族意識が激し過ぎて戦争になっているほどです。さらに、我々が愛すべきドイツも、誰もが予想しえなかったスピードで統一されました。東西両独の人々の、同じドイツ人としての強力な民族意識の高まりがなせるわざだったのでしょう。

このように、民族が自分たちのことを強く考え利益を追求し、時にはエゴむき出して戦争までしてしまう時代には、いわゆる国際交流がスムーズにいくとは限りません。

ドイツ人の対日感情も厳しくなる可能性もあります。たとえば外国人排斥主義のネオナチ出現や、ベルリンで放送されているテレビドラマでは日本人を「意地の悪い黄色いサル」と露骨に表現したものもありました。

こんな傾向が進めば、単なる観光旅行的な感覚でもとも日独交流などでできなくなるでしょう。私たちが日本人としての自覚と自信を堂々と持ち、真剣な態度で交流に臨むべきです。

世界の各民族が自己を主張し競り合うこれからの時代こそ、国際交流にとっても日独交流にとっても正念場といえるでしょう。



## ドイツの小都市

沼田市 角田 勤

私の「ドイツの旅」は、以前は音楽を聴くのが主眼で、観光はミュンヘンとかフランクフルトなどの大都市か、或は音楽会の無い日に訪れる近くの観光地がほとんどでした。もちろん、そこにも見るべきものが沢山あって、楽しく有意義なものでしたが。

10年ほど前、私はデュッセルドルフの本屋で「魅力に満ちたドイツの小都市」という写真集を見つけました。それには60のマチが美しい写真と共に紹介されており、私はその後、毎年の様に、それらの都市を2、3づつ実際に訪ねてみて、今ではその魅力にすっかり取りつかれております。

どの都市も、数百年或は千年以上にわたって、ドイツ人が自分の意志で営々と築き上げてきた固有の文化を持ち、マチそのものも、他のドイツ音楽や文化などと同じように芸術作品とっていい程見事なものです。市民は、その文化と伝統に誇りを持って大切に育て、心豊かな生活を営んでおります。少々不便さより Gemütlichkeit を優先している！ 私はその姿に驚きと敬意を持つと同時に、私たちのマチと比べてみて、その内実の違いを骨身にこたえて思い知らされております。

昨年秋には、私は家内とゴスラーとハルツ山塊、ヴェルネグロア、ミルテンベルグ、ミヒェルシュタット、そしてゾーストをゆっくり訪れることが出来ました。そしてこの春には、シュトゥットガルトのIGA・EXPO'93と、昨年紹介されたファンタスチック街道の町々を訪れる予定です。

もう大概のことで驚いたり感激することもなくなった今の時代に、新しい感銘を求めて私はこれからもドイツの小都市めぐりを続けたいと思います。



Stein am Rhein (ライマン先生の手製写真カレンダーより)

### ♣ドイツ・クイズ♣

(沼田ドイツ語会 出題)

ドイツには「…街道」といわれるものが70以上もあります。そこで有名な街道(左)と、それに関係する都市(右)を結んで下さい。

- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| (1) ロマンチック街道        | a インメンシュタット      |
| (2) 緑の海岸街道          | b コンスタッツ         |
| (3) ドイツ・アルプス街道      | c フーズム           |
| (4) メルヘン街道          | d ネルトリンゲン        |
| (5) ニーベルンゲン街道       | e イーダー・オーバーシュタイン |
| (6) ドイツ・ワイン街道       | f カツセル           |
| (7) ファンタスチック街道      | g ニュルンベルク        |
| (8) 古城街道            | h ボッケンハイム        |
| (9) ラインゴールド街道       | i ミヒェルシュタット      |
| (10) シュヴァルツヴァルト高原街道 | j ポッパルト          |
| (11) ドイツ宝石街道        | k フロイデンシュタット     |
| (12) ドイツ休暇街道        | l ランズフート         |

☎は8ページの下の



ドリス夫人、ご子息、  
小林副会長(左より)

## 偶然性

『異文化の接点』著者 小林 番

長い年月教壇に立って来て常々感じていたことは、動機付けが如何に外国語学習を目指す学生たちにとって、大切でしかも不可欠であるかということであった。動機付けの如何人によっては、学習意欲もまったく変わるといことをしじみと感じてきた。

その意味合いもあって、学生たちの学習意欲を増し、遙かかたの異国と思われているドイツへの心理的な距離感を少しでも縮めてやれればと思ひ、異文化の接点を求めて書いてみようと考えた。それも出来る限り身近なところに接点を探し求め、未知への好奇心をそそるものであると同時に、ドイツ文化の深層にも触れられるものと願っていた。

そこで日・独比較観点の上に立って、両者に共通性があり、しかも庶民文化の基層を担ってきたような、日常的で、牧歌的で土臭く生活に密着したものに焦点を当ててみようと考えた。むしろそこにこそ人間の営みの規範にも触れるような、しかも人生の片鱗をのぞかせるような身近なものや、人々の隠れた機微や心象や情の袈が秘め、心惹かれるものがあると考えた。

そこで小稿が書きあがるたびに、学生たちに披露した。偶然にも教材との大きな接点があったためであろうか、反応が大きかった。物事をするにも、人生にも偶然性が多いが、考えてみれば偶然には二面性があり、不幸にも幸せにも繋がる場合がある。今回の場合はその後者であろう。学生たちの思わぬ感激が私を動かし、その結果が今回のまったく予期せぬ県文学賞受賞に結びついたのであろうと考えている。

ドイツ語に予期せぬ喜びを称して Überraschung という言葉があるが、まさに今回の受賞はその一言に尽きる。大きな重荷が肩にかかった感がするが、益々精進してゆきたいと願っている。

## 書籍紹介「異文化の接点」

### Berührungspunkte der Kulturen

Es gibt verschiedene Wege, die Kultur besser zu verstehen; zum Beispiel ist es üblich, sie durch das Studium der Schriftsteller und ihrer Werke zu erfassen, eine andere Methode ist, sie durch die Geschichte und industrielle Entwicklung zu begreifen. Wieder eine andere Methode ist es, die alltäglichen Dinge zu erforschen, wenn man glaubt, daß die Kultur auf der Basis des Lebens entsteht. Wenn wir die Subtilität und das Gefühl der menschlichen Natur finden, werden wir tief beeindruckt. 定価2,200円

三修社

★先に紹介した5周年記念大会講演の講師の方々の略歴です。  
ふるってご参加下さい。

さて、ご依頼の件ですが、来る6月27日の「ぐんま日独協会五周年大会」にお招き下さいまして、誠にありがとうございます。喜んで伺わせていただきたいと思います。講義の題目は「ドイツにおける日本のイメージ」とさせていただきますようお願い申し上げます。J・クライナー

Dr. Josef Kreiner 生年月日 1940年3月15日

- 学歴：1958年—61年 ウィーン大学で民族学（日本文化研究）を専攻  
1961年—63年 文部省留学生として東京大学東洋文化研究所に留学  
1964年 ウィーン大学で哲学博士号(Dr. Phil)を取得  
博士論文：「奄美大島における社会と宗教」  
1969年 ウィーン大学における教授権を取得  
論文：「日本村落の祭祀組織」  
1970年 ボン大学における教授権を取得
- 職歴：1964年—69年 ウィーン大学日本文化研究所・助手兼講師  
1969年—71年 ボン大学助教授  
1971年—77年 ウィーン大学教授（日本文化研究）  
1977年より ボン大学教授（日本文化研究）現在に至る  
ボン大学日本文化研究所所長・兼・同大学東洋言語研究所所長  
1988年より ドイツ日本研究所所長 現在に至る

著書：「日本村落の祭祀組織」（独文）  
「南西諸島の神観念」（住谷一彦氏と共著）  
「ドイツと日本との歴史的交流」（編著）  
「大正時代の日本とドイツ」（編著）  
「アイヌ」（H. D. オイルシュレーガー氏と共著）  
「ケンベルのみたトクガワ・ジャパン」（編著）  
「ドイツ人のみた明治の奄美」（田畑千秋氏と共訳）  
国際交流基金奨励賞受賞：1976年、1987年

常木 實 教授

生年月日 大正2年7月31日

最終学歴 東京帝国大学

- 昭和13年4月 外務省嘱託 調査部第二課勤務（外務省）  
16年6月 山形高等学校教授（内閣）  
21年6月 評議員（山形高等学校）  
22年3月 浦和高等学校教授（文部省）  
4月 立教大学非常勤講師（54年3月末まで）  
24年6月 東京大学教養学部助教授（文部省）  
36年4月 外務省研修所講師（37年6月渡欧まで）  
37年6月 ドイツ連邦共和国（外務省）  
スイス、オーストリア他へ出張（東京大学）  
37年10月 帰国  
38年4月 東京大学文学部講師（東京大学）  
39年11月 東京大学教養学部教授（東京大学）  
47年4月 東京大学大学院人文科学研究科  
7月 ドイツ連邦共和国へ研修旅行  
49年4月 東京大学教養学部を定年退官  
49年5月 東京大学名誉教授  
49年4月 帝京大学教授（医学部、60年4月経済学部）現在に至る。  
平成4年7月 ドイツ連邦共和国功勞勲章一等功勞十字章を受く

## 平成4年度ぐんま日独協会決算書

収入の部		
項目	金額	説明
会費	1,204,500円	会員会費 3,000円×92人=276,000円
		家族会費 500円×17人= 8,500円
		法人会費 10,000円×49人=490,000円
		平成4年度大会参加費 2,000円×85人=170,000円
		大使の夕べ参加費 10,000円×26人=260,000円
雑収入	219,190円	寄付金・利子等
前期繰越金	480,306円	
計	1,903,996円	
支出の部		
項目	金額	説明
会議費	703,963円	平成3年大会費 610,225円
		会議費他 93,738円
通信費	119,238円	郵便切手他
事務費	144,831円	事務局借り上げ・その他
印刷費	424,463円	会報・名簿他
図書研究費	111,160円	図書購入費他
講演会費	33,130円	会場借り上げ料他
広報	95,716円	
次期繰越金	271,495円	
計	1,903,996円	

※3月31日現在 収入支出差し引き残高 271,495円

## 会員の皆様へ

Wir wollen, dass man bei  
J. D. G in Gunma Spass hat.

本会も設立5周年を迎えることが出来ました。これも皆様の一致協力と御指導、御支援のたまものと感謝しております。揺れ動く世界情勢の中ドイツとの交友関係が望まれます。「ぐんま日独協会」も尚一層の組織拡充が必要となりました。同封の郵便振替をご利用下さい。（締切り6月5日）新会員御紹介もよろしく。

※会費 個人会員 3千円  
家族会員 5百円  
法人会員 1口1万円

## ◆投稿ご案内

日独交流につながる〔ご感想・情報・会員消息・作品〕を住所・氏名・職業・年齢・電話番号明記の上、お寄せ下さい。紙面の都合で編集部で手直しさせていただくことがあります。

（800字以内）

原稿の返却はいたしません。

宛先：〒371 前橋市三俣町三丁目11番12号

ぐんま日独協会

T E L 0272(31)7212・F A X 0272(32)4082

## ◆編集後記◆

ハイマートの編集にかかわり始めてはや5年に成り、会員の皆様のお便り有難うございます。

これからは、「投書欄」などを考えて居りますのでよろしく願います。

土屋

〔この度、ベルリン・ピアノ・トリオ日本公演につき、ドイツ大使館より御後援をいただきました。尚、ぐんま日独協会も協賛致します。〕

1993年1月9日付け貴書簡拝受致しました。

当大使館文化部は、1993年3月21日から29日（京都公演を除く※神戸領事館の管轄）の「ベルリン・ピアノ・トリオ日本公演」の後援を喜んでお引き受けする旨茲にお伝え致します。

この度のコンサートが成功を収められますことと、併せて、貴協会の一層の御発展をお祈り申し上げます。

文化部長代理  
ドクトル・フォルカー・フス



記

『ベルリン・ピアノ・トリオ 1994年 日本公演』

出演者：ベルリン・ピアノ・トリオ (Klavier Trio Ara-Brandis-Boettcher, Berlin)  
 ピアノ：荒 憲一 (Ken Ara, Klavier)  
 ヴァイオリン：トーマス・ブランディス (Thomas Brandis, Violin)  
 チェロ：ヴォルフガング・ベッチャー (Wolfgang Boettcher, Violoncello)

来日予定時期：1994年3月16日～3月29日  
 公演予定地：(詳細な日程に関しては現在調整中)  
 大阪：ザ・シンフォニーホール (大阪センチュリー交響楽団 定期演奏会 3月16日)  
 大阪：いずみホール (3月27日)  
 東京：カザルスホール (3月21日)  
 東京：サントリーホール (大阪センチュリー交響楽団 東京定期演奏会 3月22日)  
 京都：パロックザール  
 札幌：北海道教育文化会館  
 神奈川：津久井文化福祉会館  
 福島：大熊町文化センター  
 群馬：前橋市民文化会館 または 高崎芸術短期大学水琴奏楽堂 (調整中)

Klavier Trio Ara-Brandis-Boettcher, Berlin  
プロフィール

ピアノ：荒 憲一 / Ken Ara



東京芸大を経て、ベルリン国立音楽大学にてヘルムート・ロロフ氏に師事。66年ベルリン放送交響楽団と協演してドイツテレビを行う。その後ベルリンフィル、チェコフィルの定期に出演して高い評価を得、ピアニストとしての地位を確立。欧州各国及び日本全国で数多くのリサイタルの他、『ベルリンフィルハーモニー・トリオ』『ベルリン・ピアノ・トリオ』のメンバーとして、また現代チェコスロヴァキアを代表する『トラヴニチェック弦楽四重奏団』との度々の協演など室内楽の分野にも意欲をみせている。ソリストとしてもめざましい活躍を続け、ベルリンフィル、ベルリン放送交響楽団、フランクフルト放送交響楽団、チェコフィル、スロヴァキアフィル、アムステルダムフィル、ヴァンクーヴァー交響楽団など各国の主要オーケストラをはじめ、N響、大阪フィル、新日本フィルなど日本のすべての主要オーケストラと度々協演している。

ヴァイオリン：トーマス・ブランディス / Thomas Brandis



1953年ハンブルク生まれ。1952年よりハンブルク国立音楽大学に学び、1956年ドイツ国立音楽大学コンクールに入賞。1957年ミュンヘン国際音楽コンクールデュオ部門第2位。1959年ハンブルク交響楽団第1コンサートマスターを経て、1962年にはベルリンフィルハーモニー管弦楽団第1コンサートマスターに就任した。1976年には、ベルリンフィルのメンバー達とともに『ブランディス弦楽四重奏団』を結成。この四重奏団はデビュー以来、ヨーロッパ一流の弦楽四重奏団の一つとして高く評価され、カラヤンも絶賛を惜しまなかった。1983年にはこの弦楽四重奏に専念するため、ベルリンフィルを辞した。現在、国立ベルリン芸術大学音楽学部教授。

チェロ：ヴォルフガング・ベッチャー / Wolfgang Boettcher



ベルリン芸術大学を卒業後、ジャン・ドロン等に学び、1958年ミュンヘン国際音楽コンクールデュオ部門第2位を受賞し、同年ベルリンフィルハーモニー管弦楽団に入団し、1963年から76年までベルリンフィル首席チェロ奏者を務めた。彼はベルリンフィル時代から、ソリストとしても非常に高く評価されており、指揮者ではカラヤン、チェリビダッケをはじめとする、世界のトップレベルの指揮者及びオーケストラと数多く共演しており、ウィーン芸術週間、ベルリン芸術週間、サルツブルク音楽祭、ロッケンハウス音楽祭(ギドン・クレーメル主宰)などから、度々招かれている。1976年にはブランディス等と『ブランディス弦楽四重奏団』を結成した。現在、国立ベルリン芸術大学音楽学部教授。

『三者の呼吸がびたりと合い、  
 音楽的な呼吸は正確であり、アンサンブルは清純で無駄がない。  
 表情は自然なうちに生気と朝氣にみちている…。  
 このグループは、その競奏と協奏が際どい均衡を保って、  
 安定したなかにも緊張のある音楽を聞かせる』

(中河原理・音楽評論家 朝日新聞)

・プログラム案・

- |   |   |
|---|---|
| (A) ベートーヴェン：ピアノ、ヴァイオリン、チェロと管弦楽のための三重協奏曲<br>ハ長調 Op. 56                   | *<br>ドヴォルザーク：ピアノ三重奏曲 第4番 ホ短調 『ドゥムキー』 Op. 90             |
| (B) モーツァルト：ピアノ三重奏曲 第4番 空想長調 K. 502<br>ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲 第11番 長調 Op. 121-a | (D) ハイドン：ピアノ三重奏曲 第39番 長調 Hob. XV-25<br>ラヴェル：ピアノ三重奏曲 イ短調 |
| *<br>ドヴォルザーク：ピアノ三重奏曲 第4番 ホ短調 『ドゥムキー』 Op. 90                             | *<br>ドヴォルザーク：ピアノ三重奏曲 第4番 ホ短調 『ドゥムキー』 Op. 90             |
| (C) ハイドン：ピアノ三重奏曲 第39番 長調 Hob. XV-25<br>モーツァルト：ピアノ三重奏曲 第4番 空想長調 K. 502   |   |

(演奏曲目は変更される可能性があります)

クイズの答 (1)-d, (2)-c, (3)-a, (4)-f, (5)-i, (6)-h, (7)-b, (8)-g, (9)-j, (10)-k, (11)-e, (12)-f